

串間市文化財調査報告書第 24 集



# 市内遺跡発掘調査報告書

下 大 平 遺 跡

桑 木 第 2 遺 跡

竹 際 遺 跡

2 0 0 3

宮崎県串間市教育委員会

串間市文化財調査報告書第 24 集

# 市内遺跡発掘調査報告書

下 大 平 遺 跡

桑 木 第 2 遺 跡

竹 際 遺 跡

2 0 0 3

宮崎県串間市教育委員会

## 序

串間市内には各時代各種の埋蔵文化財が数多く点在しています。串間市教育委員会ではこれらの文化財を先人の残してくれた貴重な遺産と捉え、後世に伝え残すことが現代に生きる者の責務であるとの認識に立ち、その保護と活用に努めておりますが、各種の開発事業・造成工事等が埋蔵文化財に影響を与える場合が多く、文化財保護と各種事業との調整が慢性的な課題となっています。このような状況の中、当教育委員会では各種事業が市内に分布する埋蔵文化財に影響を与えることが危惧される場合には事前の試掘調査ないし確認調査を実施し、埋蔵文化財の有無・範囲・性格等を把握して文化財保護のための協議資料としています。

本年度は、下大平遺跡・桑木第2遺跡・竹際遺跡についての試掘調査を行い、その成果を当報告書として刊行することとなりました。当報告書が今後の文化財保護への理解に役立つとともに生涯学習・学校教育等の場において広く活用されれば幸いに存じます。

最後になりましたが、調査を実施するにあたってご協力いただきました関係諸機関並びに市民の皆様に対しまして、心より感謝申し上げます。

串間市教育委員会

教育長 五 島 千穂子

## 例 言

1. 本書は宮崎県串間市教育委員会が国県の補助を得て平成14年度に実施した市内遺跡発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査は、市内に所在する周知の遺跡並びに埋蔵文化財が包蔵される可能性のある地点のうち、下大平遺跡、桑木第2遺跡、竹際遺跡について実施した。
3. 発掘調査は、串間市教育委員会が主体となり、同主事宮田浩二が担当した。
4. 調査組織は以下のとおりである。

調査主体 串間市教育委員会

教 育 長	五 島 千穂子
生涯学習課長	古 瀬 健
生涯学習課長補佐	武 田 敦 夫
文化振興係長	村 田 満 郎
主 事	宮 田 浩 二 (調査・執筆・編集)
主 事	川 上 幸 典 (庶務)
発掘作業員	地元有志
整理作業員	川 崎 知 子、中 村 光 子
調査指導	宮崎県教育委員会文化課

5. 遺跡の名称は小字名による。
6. 報告書抄録中の緯度・経度は国土地理院発行「1：5,000 国土基本図」による。
7. 出土した遺物は串間市教育委員会で保管している。

# 目 次

本文目次	頁
第Ⅰ章 下大平遺跡の調査 .....	1
第1節 調査に至る経緯 .....	1
第2節 遺跡の位置と環境 .....	1
第3節 調査の内容 .....	1～2
第Ⅱ章 桑木第2遺跡の調査 .....	3
第1節 調査に至る経緯 .....	3
第2節 遺跡の位置と環境 .....	3
第3節 調査の内容 .....	3～4
第Ⅲ章 竹際遺跡の調査 .....	6
第1節 調査に至る経緯 .....	6
第2節 遺跡の位置と環境 .....	6
第3節 調査の内容 .....	7～9
報告書抄録 .....	16
挿図目次	
第1図 下大平遺跡位置図 .....	1
第2図 下大平遺跡概要図 .....	2
第3図 桑木第2遺跡位置図 .....	3
第4図 桑木第2遺跡基本層序模式図 .....	4
第5図 桑木第2遺跡概要及び福島町古墳分布図 .....	5
第7図 竹際遺跡位置図 .....	6
第8図 竹際遺跡基本層序模式図 .....	9
第9図 竹際遺跡概要図 .....	9
図版目次	
図版1 調査状況写真 .....	10～13
図版2 出土遺物写真 .....	14～15

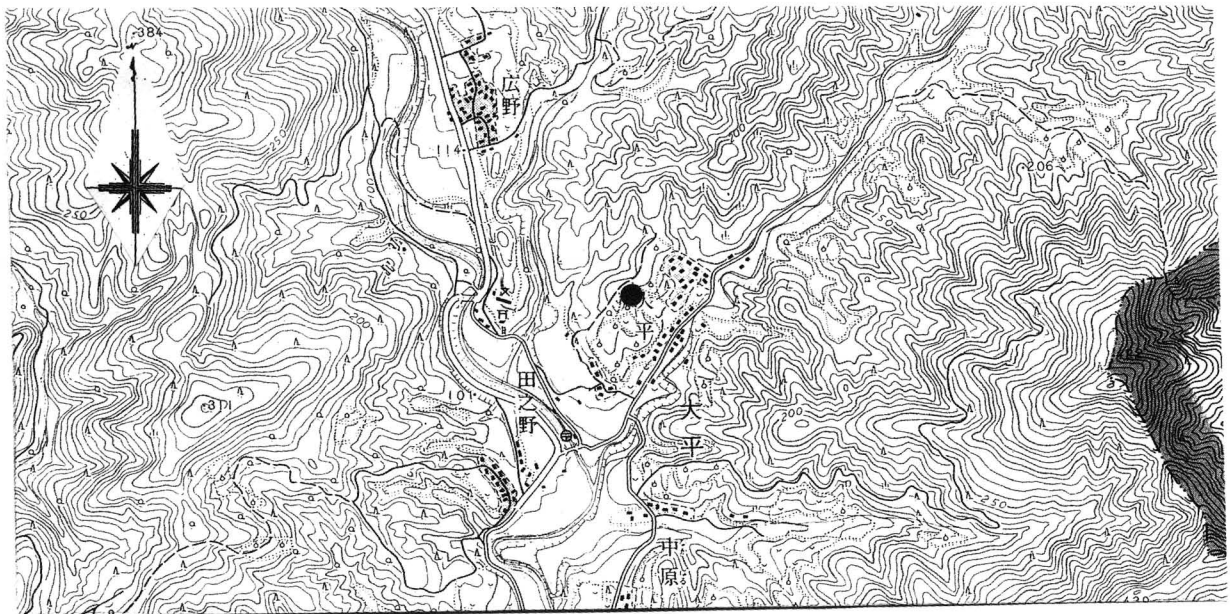
# 第Ⅰ章 下大平遺跡の調査

## 第1節 調査に至る経緯

当遺跡の調査は携帯電話電波基地局の建設計画に起因する。平成14年6月26日付けにおいて当地点についての文化財有無の照会が業者よりあった。建設計画地点は遺跡として周知されてはいなかったが、地形的に埋蔵文化財の存する可能性があったため、試掘調査が必要であることを回答し、調査を実施することとなった。調査は平成14年8月1日に実施した。

## 第2節 遺跡の位置と環境

調査地点は宮崎県串間市大字大平3317番地(字下大平)の一部である。大平地区は日南市に隣接する市域の北部に位置する。地点は大平川の支流である池河原谷川の左岸に形成された標高約130mの山稜の中腹で、開墾されて畑地となっており、現況としてはサツマイモ畑である。地点から池河原谷川方向へは段々畑が営まれ、谷川沿いの標高約110m地点(現大平小学校周辺)は縄文時代草創期から後期の遺物を出土した大平遺跡として知られる。

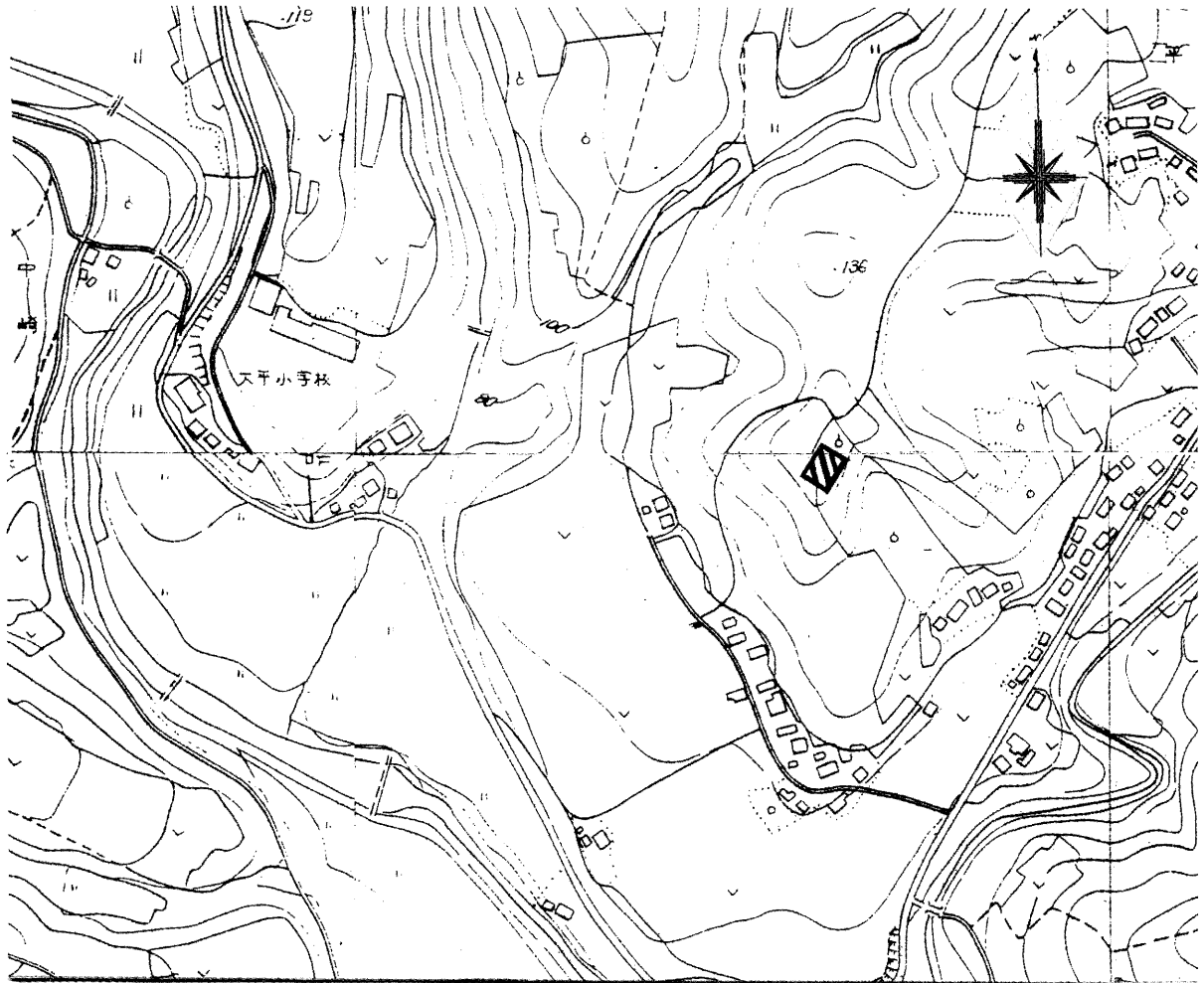


第1図 下大平遺跡位置図(1/25,000)

## 第3節 調査の内容

調査対象は建設計画予定地の99㎡で、地内に1本のトレンチを設定して調査を実施した。土層の状況としては表土(褐色土、厚さ20cm)の下層が硬質黒褐色土(厚さ10cm)となり、その下層は暗褐色塊を含む褐色土へと続き、以下はAT層となる。黒褐色土は串間地方に広く分布する縄文時代早期相当層であるが、上位で若干の削平を受けており、アカホヤ以上の土層は開墾等の際に削平されたものと思われる。黒褐色土はやや西方向

への傾斜を呈し、貝殻条痕文土器などを含んで、当調査における主たる包含層となった。  
なお、表土中からも土器小片が出土しているが、時期等を特定するに至っていない。



第2図 下大平遺跡概要図 (1 / 5,000)

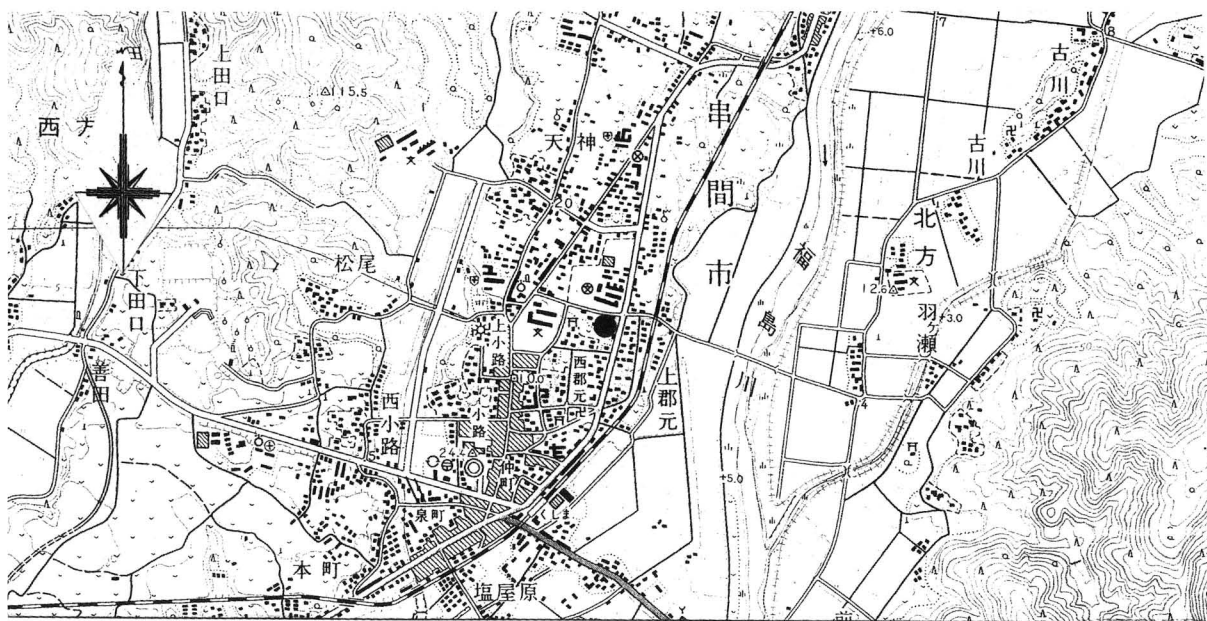
## 第Ⅱ章 桑木第2遺跡の調査

### 第1節 調査に至る経緯

当遺跡の確認調査は管理者である宮崎南部森林管理署からの文化財有無照会による。当地域は串間市街地にあたり、歴史的に土地活用が盛んな地域で、調査地に隣接する串間警察署官舎（建設中）の計画にあたっては平成13年度、宮崎県埋蔵文化財センターにおいて桑木遺跡として発掘調査が実施された経緯を持つ。このため照会を受けた当教育委員会では遺跡の範囲等を確認する意味において調査を行うこととした。調査は平成15年2月24日から2月27日にかけて実施した。

### 第2節 遺跡の位置と環境

調査地点は串間市大字西方4048-1他（字桑木）である。当地域は福島川右岸に形成された標高約20mのシラス台地上にあたり、周辺には福島古墳群が展開し、北方向へ1kmほどに位置する櫛間城（中世山城）の時期には陣営が設けられるなどして櫛間城の攻防をめぐる戦場ともなった地域である。



第3図 桑木第2遺跡位置図（1 / 25,000）

### 第3節 調査の内容

調査対象地の680㎡には住宅2棟が存するため、これらを避けて広狭4本のトレンチを設定して調査を実施した。当遺跡における基本層序は第4図に示す状況で、各トレンチにおける調査の内容及び結果は以下のとおりである。

#### 1号トレンチ

対象地の北寄りに南北を長軸に設定。土層の状況としてはI層（客土、厚さ45cmで2層に分かれる）の下層がII層（暗灰色土、厚さ約30cm）で、当層が旧表土である。その



下層はⅢ層（黒色土、厚さ 30 cm）、Ⅳ層（御池ボラを含む黒色土、厚さ 10 cm）、Ⅴ層（アカホヤ、厚さ 10 cm）と続き、アカホヤ上面での旧地形はほぼ平坦を呈する。アカホヤ面で検出された遺構はピット 4 本及び楕円形土坑 1 基で、最大のピットはボラ粒を含む黒色土を埋土とする径 37 cm の円形である。楕円形土坑はトレンチのほぼ中央部で検出され、北西から南東方向を長軸とするもので、長径 1 m 強・短径 60 cm を測る。半裁を試みたが深さが 2 m 50 cm ほどになる見込みで完掘できていない。埋土はボラ粒を含む黒色土で遺物は含まない。なお、Ⅱ層がⅢ層を切っているため各遺構の上位部については不明である。また、トレンチの北側半分をⅥ層（硬質暗褐色土）まで調査したが、遺物・遺構ともに認められなかった。

#### 2号トレンチ

東西を長軸に設定し、土層の状況としては1号トレンチに同じでⅡ層に切られているためⅢ層の残存状況があまり良くない。しかしながら土師質土器を含み、アカホヤ面では大小 9 本のピットが検出された。最大のピットは長径 35 cm・短径 32 cm である。ピットの埋土はいずれもアカホヤ粒を含む黒色土で、トレンチの壁にかかったピットはアカホヤ面から深さ 45 cm を測り、Ⅵ層中で止まるというものだった。

#### 3号トレンチ

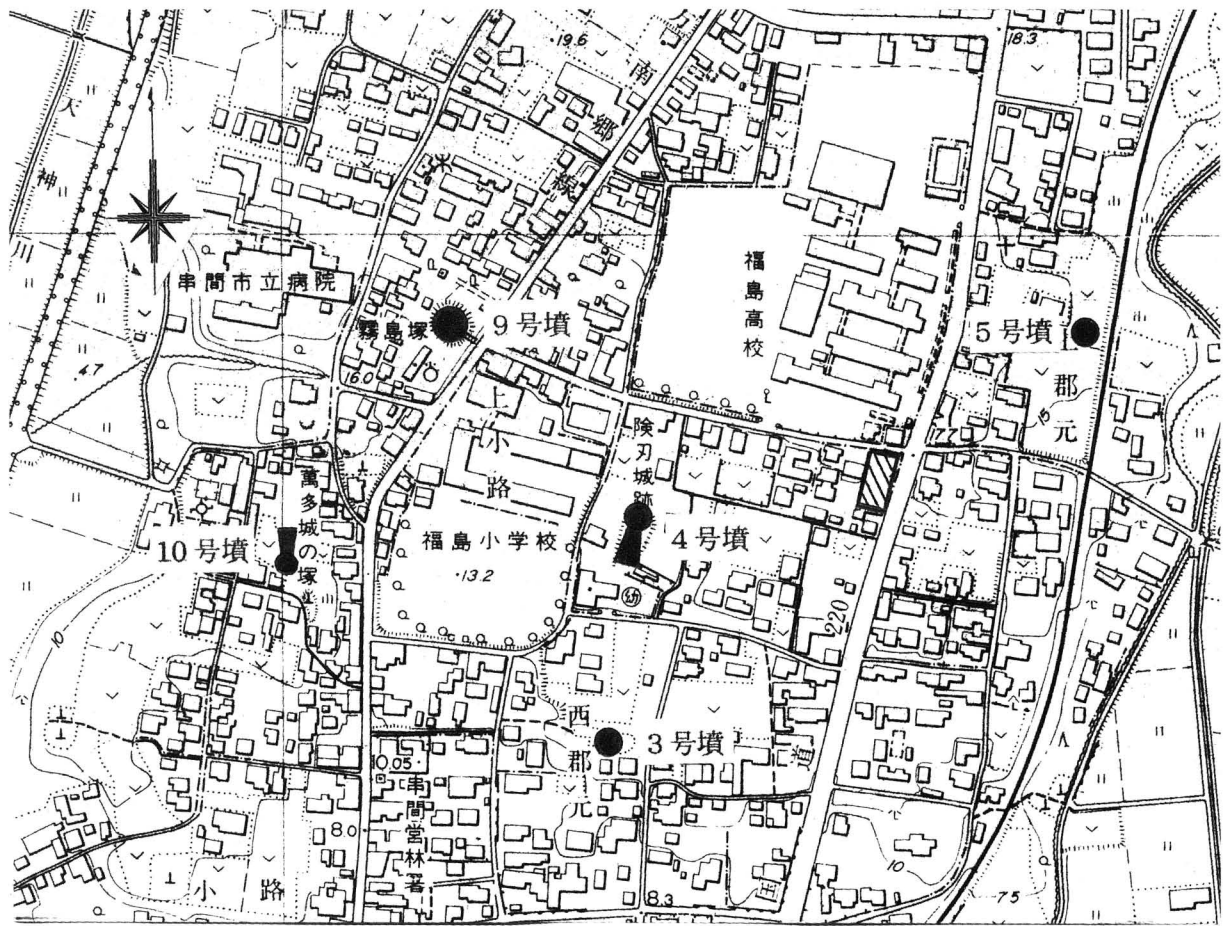
1号トレンチの東側に平行して南北を長軸に設定。土層の状況としては1・2号と同様で、遺物は少なく、アカホヤでの旧地形は若干南へ傾斜する。トレンチの南側では小規模古墳の周溝と思われるプランが検出された。トレンチの幅は約 1 m であるがプランは西壁から南東隅方向に幅 52cm で展開し、ドーナツ形の 5 分の 1 ないし 6 分の 1 部分と目され、埋土はアカホヤブロックを含む黒色土で、同一個体の土器片数点が出土している。

#### 4号トレンチ

2号トレンチの南側に平行して東西を長軸に設定。近現代の建築物基礎に調査面積を狭められたが、Ⅲ層以下の土層の残存状況は割りに良好で、アカホヤ面での旧地形はほぼ平坦である。Ⅲ層では土師皿を主とした遺物が出土、また、アカホヤ面では 7 本のピットが検出された。ピットの埋土はいずれも黒色土にアカホヤ粒を含むもので、トレンチの北西隅でとらえた最大のピットは径約 40 cm を測り、埋土中からは土師皿数点が出土している。また、その他の 4 本のピットからも土師質土器が出土している。

I 層（客土）	I
II 層（暗灰色土）	II
III 層（黒色土）	III
IV 層（御池ボラを含む黒色土）	IV
V 層（アカホヤ火山灰層）	V
VI 層（硬質暗褐色土）	VI

第 4 図 桑木第 2 遺跡基本層序模式図



第5図 桑木第2遺跡概要及び福島町古墳分布図 (1 / 5,000)

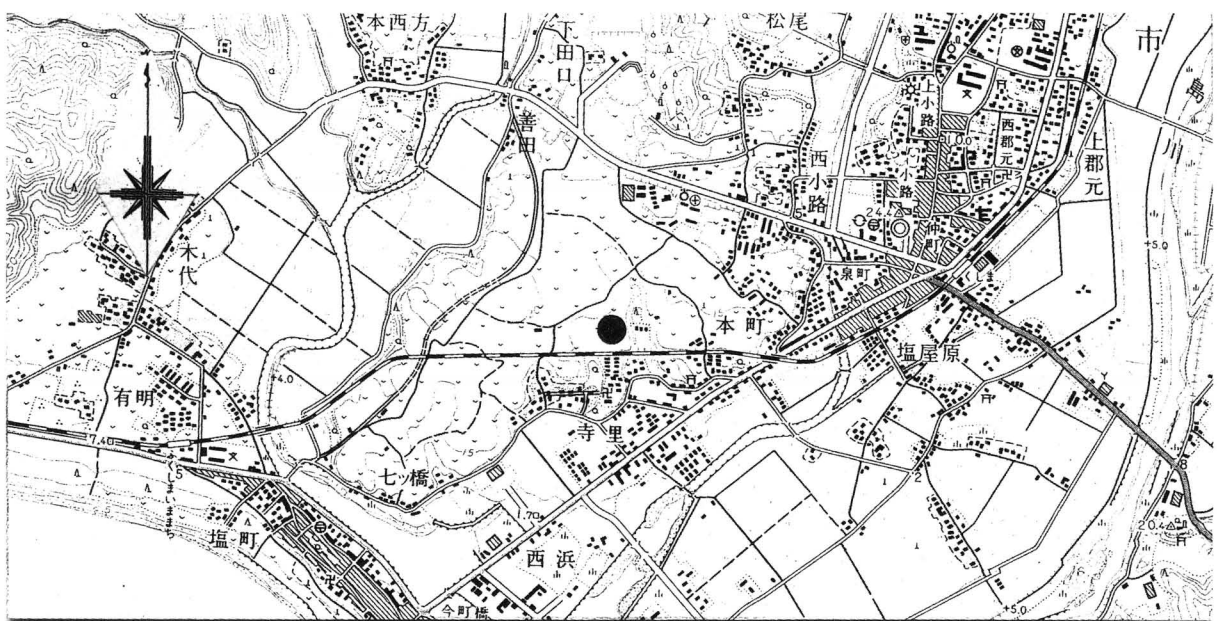
## 第三章 竹際遺跡の調査

### 第1節 調査に至る経緯

当遺跡の調査は「天地がえし」と呼ばれる甘藷の連作によって弱化した地力の回復を目的として行われる土層攪拌予定に起因する。甘藷作付の盛んな当市においては「天地がえし」が随所で行われているが、同行為は遺跡に影響を与えることがあるため、当教育委員会においては情報が得られ次第、試掘・確認調査を施すこととしている。当遺跡の試掘調査は平成15年2月28日から3月11日にかけて実施した。

### 第2節 遺跡の位置と環境

調査対象地は串間市大字西方字竹際に所在する。福島平野を南北に縦貫する福島川の右岸にはシラス台地（通称；善田原）が形成され、地点は当台地の南東部にあたり、福島平野を見下ろす環境にある。善田原は志布志湾に接近するあたりまで延長する広大な台地で、これまでには石槨状遺構の検出された銭亀塚（県教育委員会、昭和28年）、弥生時代から古墳時代にかけての遺跡で住居跡8軒が検出された唐人町遺跡（県教育委員会、昭和62年～平成元年）、地下式横穴11基・石蓋土壙墓1基が検出された崩先地下式横穴群（県教育委員会、平成2年）、縄文時代後晩期の土器を出土した東堀遺跡（市教育委員会、平成7年）などの発掘調査例があり、平成11年度の当市内遺跡発掘調査における別府ノ木遺跡では縄文時代草創期の帯隆文土器が出土している。また、昭和8年に県指定された「福島町古墳」のうち2基は当台地上に存した。これらの事例が示すように善田原台地は多くの遺跡を立地させ、串間地方の原始・古代を探る上で欠くことのできない地域である。



第6図 竹際遺跡位置図（1 / 25,000）

### 第3節 調査の内容

調査は対象地約2000㎡に計27本のトレンチを設定して実施。1～14号トレンチは概要図に示したA地区東部に東西方向を長軸に、15～24号はB地区に南北方向を長軸に、25～27号はA地区西部に南北方向を長軸に設定した。当地における基本的な層序は第7図に示すとおりで、各トレンチの状況は以下のようである。

#### 1号トレンチ

旧地形は南西方向に傾斜。アカホヤ面では3本のピットが検出され、最大は径19cmを測る。遺物は表土中の土器。

#### 2号トレンチ

旧地形は若干西方向へ傾斜。アカホヤ面で4本のピットが検出され、最大は径23cm。遺物は表土中の土器・染付。

#### 3号トレンチ

旧地形は若干西方向へ傾斜。アカホヤ面で長径33cmのピットが検出された。アカホヤ下層までを調査するが、遺物は表土中の土器・陶器、Ⅲ層中の土器小片。

#### 4号トレンチ

旧地形は西方向へ傾斜。遺構は検出されない。表土が厚く、トレンチが深くなったためにアカホヤ面にとどめる。遺物は表土中の土器・青磁・陶器、Ⅱ層で土器。

#### 5号トレンチ

旧地形は若干東方向へ傾斜。アカホヤ面で2本のピットが検出され、最大径は17cm。遺物は表土中の土器・白磁・染付。

#### 6号トレンチ

旧地形はトレンチの東壁に現れた自然状の深い落込に向けて傾斜。アカホヤ面で長径28cmのピットを検出。遺物は表土中の土器・染付。

#### 7号トレンチ

旧地形は若干西方向へ傾斜。Ⅵ層までを調査するが遺構は認められない。遺物は表土中の土器・土師質土器・陶器。

#### 8号トレンチ

旧地形は若干西方向へ傾斜。トレンチの西側で近現代土坑がアカホヤまでを大きく切り、Ⅶ層までを調査したが遺構は検出されていない。遺物は表土中の土器・青磁・白磁、Ⅲ層での土器。

#### 9号トレンチ

旧地形は北方向へ傾斜。表土が厚くトレンチが深くなったためにアカホヤ面にとどめる。遺構は検出されず、遺物は表土中の土器・白磁・陶器、Ⅱ層での土器。

#### 10号トレンチ

溜まった雨水が抜けないうえに完掘は断念。遺物は表土中の土器・染付。

#### 11号トレンチ

旧地形はトレンチ西隅に現れた自然状落込に向けて傾斜する。Ⅶ層までを調査するが遺構は検出されなかった。遺物は表土中の土器・白磁・染付。

#### 12号トレンチ

旧地形は若干西方向へ傾斜。アカホヤ面で長径20cmのピット1本を検出。遺物は表土中の土器・青磁・白磁・染付。

#### 13号トレンチ

旧地形は若干西方向へ傾斜。表土が厚いためアカホヤ面までに調査をとどめる。遺構

は長径 20 cm のピット 1 本と径約 50 cm の土坑が検出された。遺物は表土中の土器・陶器、Ⅲ層での土器。

#### 14号トレンチ

旧地形は若干東方向へ傾斜。アカホヤ面で 5 本のピットが検出され、最大は径 22 cm。遺物は表土及びⅡ層中での土器。

#### 15号トレンチ

旧地形は若干南方向へ傾斜。Ⅶ層までを調査したが、近現代土坑がアカホヤ下層まで掘り込んであり、遺構は検出されなかった。遺物は表土中の青磁、アカホヤ下層の土器小片・小焼礫。

#### 16号トレンチ

旧地形は西方向へ傾斜。Ⅸ層までを調査し、アカホヤ面で小ピット 2 本を検出。Ⅲ層までが削平を受けており、遺物は表土中の白磁、アカホヤ下層の土器小片・小焼礫。

#### 17号トレンチ

旧地形は若干西方向へ傾斜。Ⅸ層までを調査したが遺構は検出されなかった。遺物は表土中の土師器・青磁・白磁、アカホヤ下層の土器・小焼礫。

#### 18号トレンチ

旧地形は若干西方向へ傾斜。Ⅸ層までを調査したが遺構は検出されなかった。遺物は表土中の土器・磁器。

#### 19号トレンチ

旧地形は若干南方向へ傾斜。Ⅸ層までを調査しアカホヤ下位で止まる小ピット 2 本を検出。遺物は表土中の土器・陶器・染付。

#### 20号トレンチ

旧地形は若干西方向へ傾斜。Ⅵ層までを調査したが遺構は検出されなかった。遺物は表土中の土器・青磁。

#### 21号トレンチ

旧地形は若干西方向へ傾斜。表土の下層は僅かに残る黒色土を挟んで、褐色土（ゆるい）となる。遺構は検出されず、遺物は表土中の土器・青磁。

#### 22号トレンチ

厚さ 140 cm の表土の下層は 21 号同様の褐色土となり、旧地形は若干西方向へ傾斜。遺構は検出されず、遺物は表土中の土器・白磁・染付。

#### 23号トレンチ

表土が厚さ 180 cm あり、その下層は確認できていない。表土中には土器・土師質土器・青磁・染付を含む。

#### 24号トレンチ

表土が厚さ 100 cm ありその下層は確認できない。表土中には土器・白磁を含む。

#### 25号トレンチ

旧地形はほぼ平坦。Ⅴ層までを調査するが、Ⅱ～Ⅳ層の残存状況は悪い。アカホヤ面でピット 3 本が検出され、最大は径 34 cm を測る。遺物は表土中の土器。

#### 26号トレンチ

旧地形は若干南方向へ傾斜。Ⅴ層までを調査しアカホヤ面でピット 3 本が検出され、最大は径 22 cm を測る。遺物は表土中の土器・陶器・白磁。

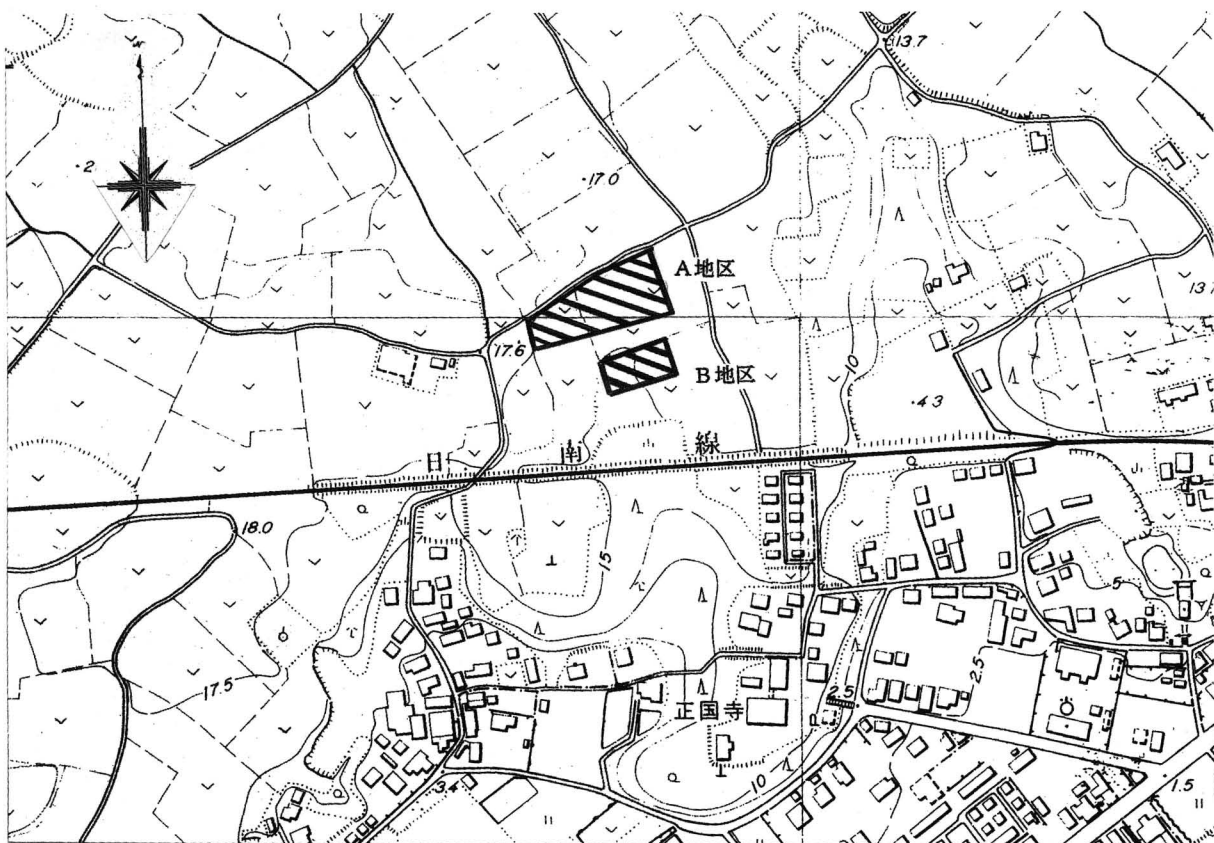
#### 27号トレンチ

トレンチの南側に自然状の落込が認められ旧地形はこれに向けて傾斜。Ⅴ層までを調

査したが遺構は検出されなかった。遺物は表土中の土器・青磁、II層での土器。

I層 (表土、暗灰色で3層ほどに分層でき、下位ほど黒ずむ)	I
II層 (黒色土)	II
III層 (御池ボラを含む黒色土)	III
IV層 (黒色土)	IV
V層 (アカホヤ火山灰層)	V
VI層 (硬質黒褐色土)	VI
VII層 (硬質褐色土)	VII
VIII層 (薩摩火山灰層)	VIII
IX層 (暗褐色土)	IX

第7図 竹際遺跡基本層序模式図



第8図 竹際遺跡概要図 (1 / 5,000)

図版 1 調査状況写真



下大平遺跡近景



下大平遺跡 1号トレンチ



桑木第2遺跡近景



1号トレンチ (南側)



1号トレンチ (北側)



2号トレンチ



3号トレンチ



3号トレンチ検出遺構



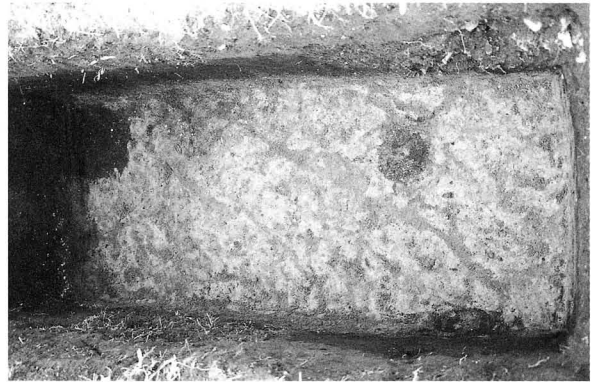
4号トレンチ



4号トレンチ検出遺構（西側）



4号トレンチ検出遺構（中央部）



4号トレンチ検出遺構（東側）



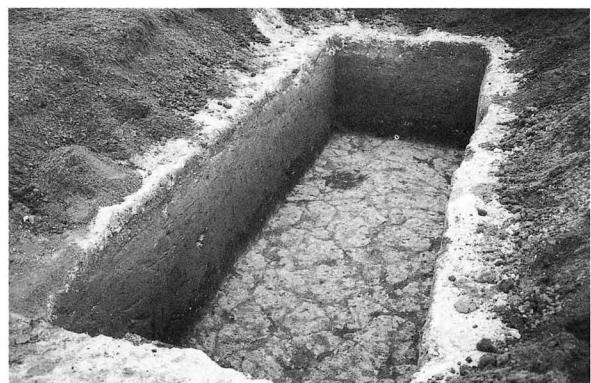
竹際遺跡遠景



1号トレンチ



2号トレンチ

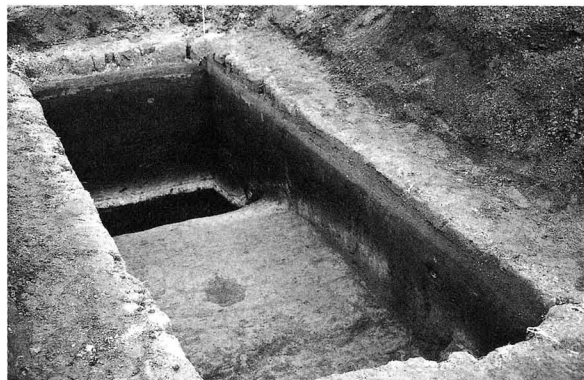


3号トレンチ





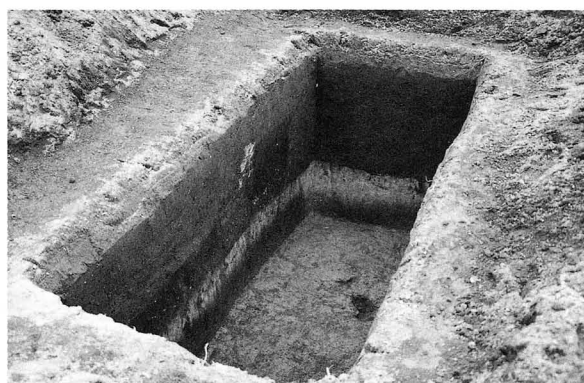
5号トレンチ



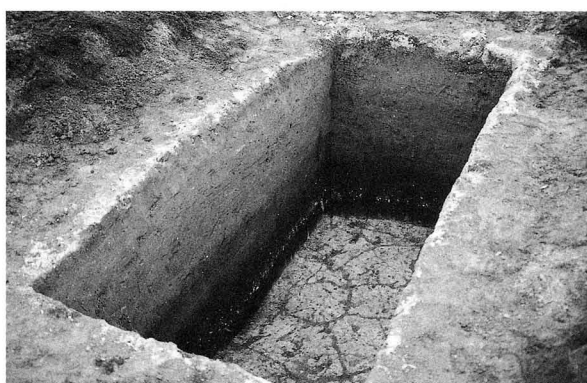
6号トレンチ



7号トレンチ



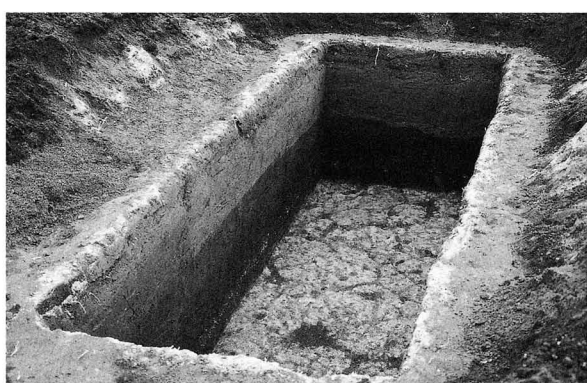
8号トレンチ



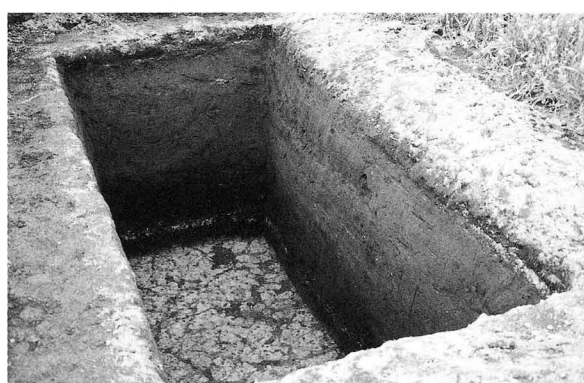
9号トレンチ



11号トレンチ



12号トレンチ



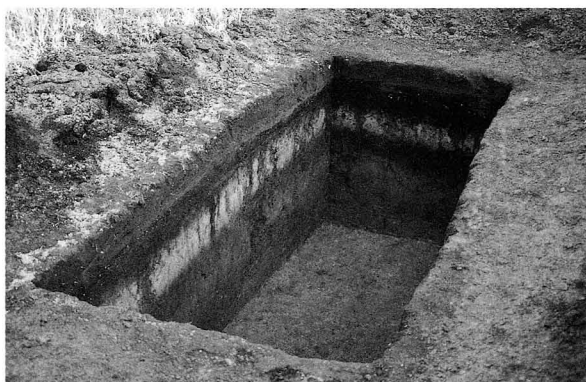
13号トレンチ



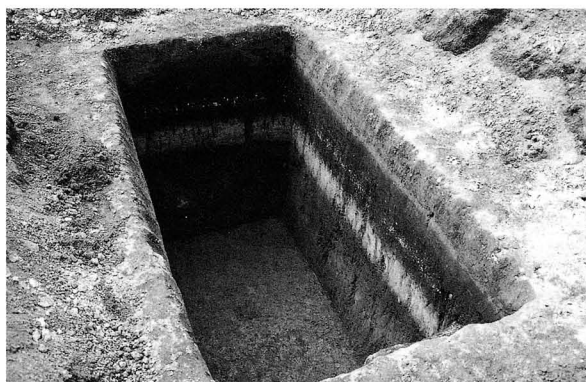
14号トレンチ



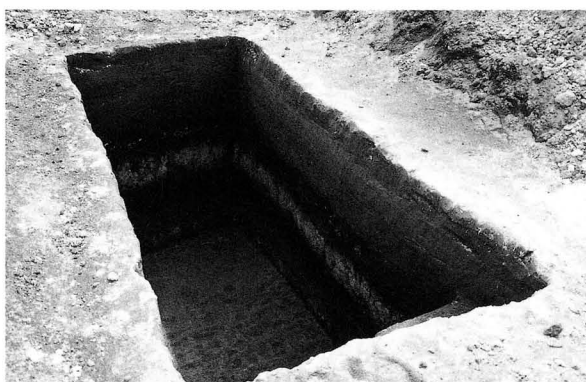
15号トレンチ



16号トレンチ



18号トレンチ



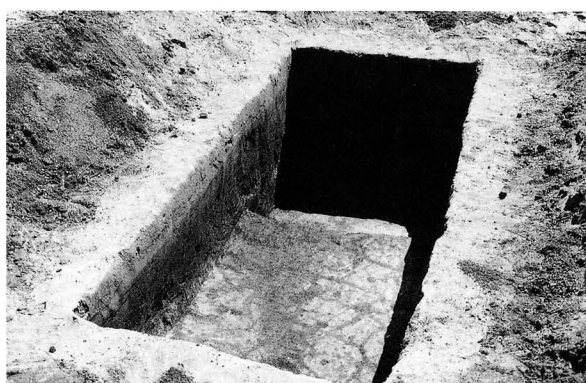
19号トレンチ



25号トレンチ



26号トレンチ

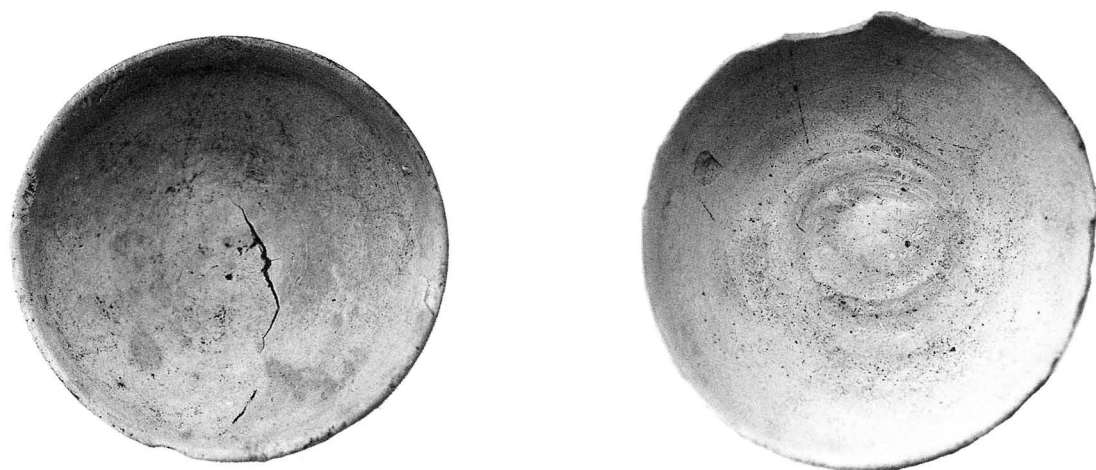


27号トレンチ

図版2 出土遺物写真  
下大平遺跡出土遺物



桑木第2遺跡出土遺物



桑木第2遺跡出土遺物



## 報 告 書 抄 録

フリガナ	シナイイセキ
書名	市内遺跡発掘調査報告書
シリーズ名	串間市文化財調査報告書
シリーズ番号	第24集
編集者名	宮田浩二
発行機関	串間市教育委員会
所在地	宮崎県串間市大字西方 6524 - 58
発行年月日	平成15年3月31日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
シモ オオ ヒラ 下大平遺跡	クシマ 串間市 オオヒラ 大字大平 シモオオヒラ 字下大平	32° 00′ 30″ 付近	131° 14′ 50″ 付近	20020801	99 m <sup>2</sup>	携帯電話 電波基地
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
包蔵地	縄文早期	なし		貝殻条痕文土器		
クワノキ 桑木第2遺跡	クシマ ニシカタ 串間市大字西方 クワノキ 字桑木	31° 27′ 50″ 付近	131° 14′ 00″ 付近	20030224 ∩ 20030227	680 m <sup>2</sup>	文化財有 無照会・ 遺跡範囲 確認
包蔵地	古墳 古代～中世	ピット、土坑 周溝？		土師器、土師皿		
タケ キワ 竹際遺跡	クシマ ニシカタ 串間市大字西方 タケキワ 字竹際	31° 27′ 30″ 付近	131° 13′ 20″ 付近	20030228 ∩ 20030311	2,000 m <sup>2</sup>	天地返し
包蔵地	古墳、中世	ピット、土坑		土師器、青磁 白磁、陶器		

串間市文化財調査報告書第 24 集

市内遺跡発掘調査報告書

2003 年 3 月

発 行 宮崎県串間市教育委員会  
印 刷 (有) 串間 新生社印刷